



絵本を活かして、子ども達の心を育みましょう！

NO.1



○ 絵本は子どもと保護者とのコミュニケーションの道具です

大好きな保護者が自分に向き合って、楽しいお話を語ってくれるひとは、子どもにとって待ち遠しい時間となります。“絵本を毎日読んだら飽きるのでは”という心配はいりません。子どもはお気に入りの絵本を何度でも読んでもらいたいのです。そして、いつもの聞きなれた声が、子どもに安心感を与えます。

○ 自己肯定感を育みます

自己肯定感とは・・・
自分が大切に思われていると感じ、
自分自身を愛すること。



自分が大切に思われていると感じた子どもは、自分を好きになり、自分を大切に思い、人との信頼関係を築いていきます。
信頼する気持ちが育っていると、他人を思いやれる子どもに育っていきます。

自己肯定感とは、人間が生きていくうえでとても大切な感情です。
自分の存在を肯定する感情は、主として幼少期に育まれます。

では、自己肯定感を育むには、どうしたらよいのでしょうか。

例えば、保護者が家事などの作業の手を止めて子どもに向き合い、絵本の読み聞かせをする。これは、子どもが大切にされていると感じる体験の一つです。



幼児期における心の体験を！

こどものとも社発行文書より抜粋